宮崎県立宮崎西高等学校同窓会
朝陽会会報
第19号
発行所
宮崎県立宮崎西高等学校同窓会
朝陽会事務局
〒880-0951
宮崎市大塚町柳ヶ迫3975番地2
TEL（0985）48－1021

ごあいさつ



朝陽会 副会長
久保 裕（一期生）

朝陽会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この会報も昨年より二月の発行となり、今年も、新入会員の皆様にもお届けできます事を大変嬉しく思っております。

さて、昨年は母校にとって、そして私たちにとっても、心に永遠に残る大きな出来事がありました。それは、野球部の甲子園への出場です。全国から一〇〇〇名近くの卒業生が甲子園に集まり、一塁側のアルプススタンドでの応援は大勢が駆けつけ、立ち見が出る程迫力のあるものでした。私たち卒業生も校歌を在校生と一緒に甲子園で大きな声で歌うことができました。また大変名誉ある、応援団の最高賞である最優勝賞もいただく事が出来きました。このような母校にとって歴史に残る感動的な場面を私たち卒業生に与えてくれたことを本当に感謝します。応援させてもらった私達にとっても、宮崎西高の同窓の絆を一層深めるよい機会となりました。全国にいらっしゃる会員の中で関東、関西にいらっしゃる方は是非、各支部への参加もお願いいたします。これからは会報はもちろんのこと、朝陽会のホームページからも様々な情報を発信していきたいと思っておりますので是非そちらもご覧ください。

話は変わりますが、私たち一期生が開校当時植えたまだ小さかったイチョウの苗も、今では毎年秋には黄色く色づいた葉っぱの絨毯を敷き詰めるほど立派に成長しました。卒業生も約一六五〇〇名になり、今年の十月には宮崎西高創立四十周年記念式典と祝賀会が行われます。母校の創立四十周年を皆様と一緒にお祝いしたいものです。

最後になりますが、朝陽会は全期同窓会を毎年八月に宮崎市内で行っておりますので、是非参加していただきたいと思います。

これからの皆様方の益々のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。





宮崎西高PTA会長
瀬口繕嶺

朝陽会会員の皆様におかれましては、益々のご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃よりPTA活動につきましても、並々ならぬご理解とお力添えを賜り厚く御礼を申し上げると共に、この度新たに同窓会会員になる第三十七回卒業生に対し、これまでと変わらず、ご先輩方のご指導、ご鞭撻を頂きますよう、保護者を代表致しましてお願い申し上げます。

さて、私がPTA会長という重責を仰せつかって早二年が経とうとしておりますが、朝陽会の皆様には、色々な場面でお力添えを頂き心より感謝しております。例えば、毎年恒例行事となっております YUME講座の講師依頼に対し快くお引き受け下さったり、そして、なんと言っても甲子園出場に伴う応援・募金活動など、本当に重要な場面で陰ながら生徒達を温かく支えて頂きました。この度、新しく朝陽会の会員となる三十七期生の卒業生にも、これまで諸先輩から受けたご恩を忘れず、今後後輩たちのサポートをして頂きたいと思います。

平成二十五年度の秋には宮崎西高創立四十周年記念行事が計画されていますが、我々PTA側も非力ながらサポートさせて頂ければと思います。

最後に、私ごとで恐縮ですが、今年度で六年間務めた宮崎西高のPTAを去ることになります。今となっては切ない気持ちで一杯でございますが、これからも宮崎西高PTA活動に対し、朝陽会会員の皆様には変わらぬご指導、ご協力をお願いすると共に、朝陽会、宮崎西高、宮崎西高附属中学校の益々のご発展と、また朝陽会会員の皆様の、ご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げまして、御挨拶とさせて頂きます。



宮崎西高校長
児玉淳郎

朝陽会会報第十九号の発行にあたり、御挨拶を申し上げます。この度、第三十七回卒業生四四一名を新規同窓会員として先輩諸氏に迎えていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

二〇一一年度は、宮崎西高校創設三十八年目にあたり、野球部が「第八十四回選抜高等学校野球大会」、いわゆる「春の選抜甲子園大会」に初出場という輝かしい足跡を本校の歴史に残してくれました。三十八年目と平成二十四年ということで「三（み）八（や）二（に）四（し）」という語呂合わせ、さらにはこれらの数字の一桁目を並べると「八四一」となり、この甲子園出場は記憶に深く刻み込むことができるのではないでしょうか。

当初予定された三月二十四日（土曜日）の愛工大名電戦は、前日の雨の影響で翌二十五日の日曜日に延期されたにも拘わらず、多くの同窓会員の皆さんが甲子園に駆けつけ、あちこちでプチ同窓会が盛り上がっていました。この年、大阪（六月二十四日・日曜日）と東京（七月七日・土曜日）で開かれた朝陽会の支部総会・懇親会は、甲子園効果で例年を超える参加者があり、特に同窓会員の多い東京地区は七十名を超える参加者があり、一〇〇名に届く日が近いのではないかと期待を膨らませているところです。同窓会の皆さん、現役高校生の頑張りに負けず、地元宮崎及び各地区での年一回の同窓会総会・懇親会を、他の伝統校に負けずより一層盛大なものとしていただきますようお願いします。

今回は、野球関連で紙面を使い切り、生徒の活躍を書くことができませんでした。本校のブログやフェイスブックで情報を発信していますので、そちらをご覧ください。

終わりに、今年の十月十八日・金曜日に宮崎市民文化ホールで創立四十周年式典を開催することといたしました。同窓会の皆様の御協力をお願いして御挨拶とさせていただきます。

懇親会報告



第15期
実行委員長
濱　田　　諭

2012年8月11日（土）午後6時より、ニューウェルシティ宮崎に於いて全期合同懇親会を開催し、盛況のうちに閉会することができましたことをご報告申し上げます。

私事ではありますが、代表幹事を仰せつかるまで朝陽会に深く関わっておらず、実行委員長が何をすべき役職なのか、どうすれば懇親会を成功させることが出来るのかも全くイメージ出来ない状態からのスタートでした。また、⑴理数科出身で普通科の方との接点があまりなかった、⑵在校時に生徒会活動に関わっていなかった、⑶しかも高校卒業後10年以上を東京で過ごし宮崎で仕事を始めたのが最近（2007年）という三重苦を抱えた僕が実行委員長を引き受けたというのは無謀ではないかと引き受けてから懇親会が終わるまで、ず～っと思ってました。

しかし、2011年の秋から同窓会理事会の諸先輩方のご指導を仰ぎながら少しずつ実行委員長の役割、懇親会を盛り上げるイメージが固まっていきました。そして、2012年の春、普通科を卒業された方々のプチ同窓会に参加させて頂いたのをきっかけに多くの協力者と出会い、2012年の6月に同窓会実行委員会を立ち上げることが出来ました。

その後は、実行委員会メンバーでの準備会を何度も開催して当日の企画や運営について話し合い、対面での準備会以外でもFacebookやメーリングリストを使って当日までの準備状況についてお互いに確認しながら準備を進めました。この準備の中、15期生の卒業生を中心に構成されたバンド「オールウェスターズ」によるライブ、17期の卒業生でテレビ宮崎の佐々木六華アナウンサーによる司会というアイデアが浮かび、これらのアイデアを当日実行に移すことが出来ました。安定感のある佐々木アナの司会、「オールウェスターズ」によるライブは、当日参加して頂いた皆様に大変ご好評を頂くことができました。なお、昨年は宮崎西高校野球部が第84回選抜高校野球大会に出場という快挙を成し遂げ、在校生、先生方はもちろん、私たち卒業生も大変盛り上がった年でしたので、当日は甲子園出場記念グッズを高校からお借りして会場に展示しました。また、現在の西高の様子を取材しDVDに収録したものを会場で放映し、皆様に喜んでいただけたことと思います。

当日の参加者数ですが、先生方を含めて全員で133名（15期卒業生だけでも109名）と実行委員会が目標にしていた120名（15期卒業生だけで100名）を達成することが出来ました。これもひとえに実行委員会の皆さん、懇親会に向けて色々なアドバイスを頂いた朝陽会理事の皆様（特に前年度実行委員長の肥田木理事）等、懇親会の準備に関わって頂いた全ての皆様のおかげです。この場を借りて深く御礼申し上げて僕の懇親会の報告を締めたいと思います。ありがとうございました。

朝陽会
宮崎県立宮崎西高等学校同窓会

懇親会抱負



第16期
実行委員長
児　玉　芳　和

この度、第16期の実行委員長を仰せつかりました児玉です。私は生徒会役員をしていたわけでもなく、ただただ自宅近くの高校を卒業したというだけで・・・、このような大役を仰せつかるとは思ってもみませんでした。

しかし、宮崎の企業に就職した私にとって（今は鹿児島へ単身赴任中ですが・・・苦笑）、宮崎への貢献・宮崎の発展の為にも、今まで母校のために何もできなかった分、精一杯やらせてもらおうと思っています。

今回の私なりのテーマは、「県外の同窓生を故郷宮崎に招集しよう！」です。帰郷のきっかけ作りが出来たらいいなぁと思ってます。そして県外在住の同窓生に地元宮崎の良さを再認識してもらい、同窓生の力で、宮崎＆宮崎西高を日本中・世界中に広められたら・・・と思っています。懇親会では、参加していただいた人に楽しんでいただけるよう、いろんな企画を検討しています。司会はもちろん、昨年同様あの有名人のスケジュールを空けてもらってます。余興では、懐かしい名曲を16期生豪華メンバーが生演奏で盛り上げてくれることでしょう。

今年、16期生の多くは40歳を迎えます。宮崎西高も創立40周年を迎えます。何か運命を感じます・・・。西高の歴史・伝統を作り、守ってきていただいた先輩方には大変感謝しております。

宮崎西高創設のことばである「未知の我を求めて」。この会を機に卒業生同士の「絆」を深めていただき、「和」を広げ、一人一人が未知の我を求められれば・・・と願っています。

気軽に参加できる楽しい場にしたいと思っていますので、宜しくお願い致します。

関東支部活動報告＆参加方法

関東支部　**河　野　一　隆**（5 期生）

朝陽会の皆様、日頃より朝陽会関東支部に御高配を賜り心より御礼申し上げます。
また、みなさまのお力添えをいただき支部の活動も６年目を迎えることになりました。今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。
関東支部は、総会の開催と情報発信・交換を中心に活動しています。
2012 年は 7 月 7 日（土）14 時より渋谷「Diverta」にて 79 名の方にご参加いただき、第 5 回朝陽会関東支部総会ならびに懇親会が行われました。
懇親会は、児玉校長先生と一木会長をお迎えし開催されました。
卒業年度毎のご挨拶とご紹介のあと各期を超えた交流の場となりました。時間の経過とともに懐かしい宮崎弁も飛び交い大変賑やかなものとなりました。
甲子園での活躍の話やそこでお会いできた同窓生との話も多く聞かれました。
お開きになるのを惜しみつつ、最後に全員で校歌を斉唱いたしました。
二次会にも多くの方がご参加され、話も弾んで大いに盛り上がったようです。
本年は、第 6 回目を迎え新たな企画と過去 5 回の経験を踏まえ内容を改善していくことで、より多くの同窓生にご参加いただきさらに盛会になることを期待しております。
最後に、宮崎西高等学校ならびに朝陽会の発展を祈念し、支部活動の報告とさせていただきます。



宮崎県立宮崎西高等学校同窓会 朝陽会関東支部 ご連絡先に関しまして

■ e-Mail：chouyou.kantou@gmail.com　■ 電話連絡：090-2293-4948　5 期河野（かわの）まで
■ Facebook ページ：「朝陽会関東支部」で検索
https://www.facebook.com/pages/ 宮崎西高朝陽会関東支部 /154381301284300

関西支部活動報告＆参加方法

関西支部 支部長　**松　尾　佳　司**（3 期生）

平成 24 年、支部最大の出来事は『野球部甲子園大会出場』でした。大会直前の 2 月、四条河原町（京都）で会員親睦会『第 3 回てげてげ会』を開催したところ、大変盛り上がりました。募金、宿舎訪問、宮日新聞へ寄稿、関連記事を支部ブログにアップするなど、できうる限りの活動を行いましたが、クライマックスは会員皆様による『甲子園アルプス席からの大応援』でした。
それでは、平成 24 年を振り返ります。

【1月】『朝陽会理事会』に支部長出席（宮崎）
【2月】『役員・同窓会学年責任者連絡懇親会』を兼ねて『第3回てげてげ会』開催（京都）／『朝陽会会報』に寄稿
【3月】『朝陽会理事会』に支部長出席（宮崎）／『甲子園出場募金』に協力／支部長副支部長が野球部宿舎を訪問（毎日新聞掲載）／支部長が野球部応援メッセージを宮日新聞に寄稿／多数の支部会員が甲子園アルプス席から応援
【4月】『定例理事会』開催（大阪）／『朝陽会理事会』に支部長出席（宮崎）
【5月】『朝陽会理事会』に支部長出席（宮崎）
【6月】『第７回朝陽会関西支部総会』開催（大阪）※一木尚敏会長と児玉淳郎校長ご来臨／『朝陽会理事会』に支部長出席（宮崎）
【7月】朝陽会理事会に支部長出席（宮崎）
【8月】『朝陽会総会』に支部長出席（宮崎）※支部長が朝陽会会則改定と同窓会学年責任者会細則制定について総会で説明　※懇親会で支部長が校歌斉唱指揮
【10 月】『定例理事会』開催（大阪）／『朝陽会理事会』に支部長出席（宮崎）
【12 月】『朝陽会理事会』に支部長出席（宮崎）



【朝陽会関西支部　since 2005】

〒557－0031　大阪市西成区鶴見橋 3－2－18　松尾医院内
電話 06－6567－1022　　FAX 06－6567－3170
メール　choyokai-kansai@voice.ocn.ne.jp
ブログ　http://choyokai-kansai.blog.ocn.ne.jp/blog/

特集！西高センバツ 夢の甲子園！ 卒業生からのメッセージ

西高センバツ 応援楽団を率いて

'91 宮崎西高吹奏楽部部長
十五期生 石黒政幸

センバツ出場決定

その日の朝刊には「宮崎西センバツへ」の大見出しが躍っていた。頬をつねって夢でない事を確認すると、驚きと喜びのあまり、飛び上がったはずみで鴨居に頭をぶつけて昏倒した。気を取り直して携帯電話を手に取ると、旧友からの着信であった。「宮崎を離れて久しいが、甲子園で野球部の晴れ姿を応援したい」と。

それが全ての始まりだった。

応援楽団編成

センバツ応援楽団用のFACEBOOKページをつくり参加を呼びかけた。ネットによる告知は功を奏し、全国津々浦々の卒業生から参加を表明する声が届いた。ブラジル在住のOBから「今回は仕事のため断念。次回は必ず参加します」とのメッセージが届いたのには驚いた。授業中、後ろ手に手紙を回しながら、放課後の集合場所を伝えていたあの頃とは隔世の感がある。

そして甲子園へ

当日、甲子園に集まったOB応援楽団は四十人以上を数えた。現役部員と合わせると一〇〇人に迫る大応援楽団である。その気炎は、胸を借りた愛工大名電応援団にも決して負けていなかった。

応援楽団編成に当たり、朝陽会をはじめ在阪の先輩方にたいへんお世話になった。また、大型の楽器の移動を伴うこの大仕事に、現役の先生方のご苦労はいかばかりだったか頭が下がる思いだ。

アルプスに思う

母校がセンバツ初出場ならば、むろん卒業生が応援楽団として甲子園球場に赴くのも未知の経験である。

白球を追いかける後輩たちを応援しながらこんなことを考えた。今回のセンバツ出場は、学校創立三八年目にして、後輩たちが建学の精神を忘れることなく努力し続けた結果なのではあるまいか。卒業してから随分月日が流れてしまったが、校門に掲げられた「未知の我を求めて」の言葉が心に沁みた。

またいつか、皆とアルプススタンドで再会できることを夢見て、思いを他日に残すのも悪くない。

夢の甲子園

七期生 宮本美和（旧姓：村野）

主人の転勤で全国を転々とする生活でしたが、長男の「高校は宮崎で」のひと言で、十年振りに宮崎に帰ることになりました。

長男は無事宮崎西高へ入学。久しぶりの母校はあまり変わっていない様でもあり、東門に続くイチョウ並木がかなり大きく育っている姿に三十年近い時の流れを感じました。

二年後、夢のような知らせが舞い込んできました。

「宮崎西高野球部、春の選抜大会出場決定！」

なんてステキなニュースでしょう。せっかく宮崎に戻り、おまけに息子は在学中。私もこの歴史的瞬間に立ち会わなければ！と甲子園行きを決めました。

息子達は何十台ものバスで生目の杜を出発。

私は剣道部父兄の野口さん、吉玉先生の奥様と二人の子供達の五人でフェリー往復での甲子園行きとなりました。前日の大雨での船酔いも心配でしたが、船内の大きなお風呂も快適で食事もgoodでした。

大阪に住む主人が早朝、南港に迎えに来てくれ、IKEAにちょっとお買物に行ったりしながら、甲子園へのりこみました。

甲子園のスタンドは想像以上の人の数。バスで甲子園入りした在校生はすでにスタンバイしておりました。

一回の攻防が終わると甲子園に宮崎西高の校歌が流れます。まさかの甲子園で校歌が歌えるなんて…。実はこの瞬間が一番「ぐっ」ときました。

試合は必死に強豪校にくらいつき、あきらめない西高野球部。スタンドはひとつになり「根性、根性、ど根性」と大きな声援を送り続けました。

帰りは慌ただしくタクシーで南港へ向かいフェリーに乗り込み、気が付くと九時前にはぐっすり眠ってしまっていました。

朝、船内で朝食を終えるとすぐ下船の時刻。宮崎に着くと月曜日の朝でしたので、そのまま仕事へ直行となりました。

今回の野球部の実績は、同じ環境で頑張っている他の部活の希望となり、又在校生、OB、父兄、先生方、西高に関わる全ての人々をつなぐ“絆”となりました。

そして もうひとつ BIGなBIGな実績。

あのスタンドの応援が日本一になった事。宮崎西高が甲子園の歴史に大きな軌跡を残しました。

野球部の皆さん、本当にありがとう。

在校生の皆さん、最高！



宮崎西高野球部のセンバツ出場についての感想

二期生（理数科一期生）芳ヶ迫隆司

関西在住の宮崎西高卒業生は、春夏の高校野球や阪神タイガースの試合を観に、甲子園に行った方も多いと思いますが、母校の甲子園出場を想定していた方はほとんどいなかったと思います。昨年三月に宮崎西高が甲子園の土を踏んだ時、改めて、不可能を可能にし、夢を実現させた宮崎西高野球部の皆さんの悦びは、大変なものだろうと思いました。私が入学した昭和五十年は、母校創設二年目でしたが、未だ野球部はなく、宮崎西高野球部の甲子園への挑戦がスタートを切ったのは、翌年の昭和五十一年であった事は今でもはっきり覚えています。そこから三十六年の歳月を経て快挙が実現したのは、監督さんと生徒さんの甲子園出場に懸ける想いと、走攻守に渡る技術が他校を上回ったからだと思います。残念ながら甲子園での初勝利はなりませんでしたが、宮崎西高ナインのはつらつとしたプレーと、一致団結した応援は、私達のみならず、全国の高校野球ファンの記憶に留められたことと思います。県内随一の進学校の看板を背負いながら、次なる夢「甲子園での優勝」を目指して、益々、宮崎西高野球部が強くなることを、甲子園すぐ近くの西宮よりお祈りしております。

甲子園の感動をありがとう！

二期生 林 美貴子

第八十四回選抜高校野球大会への出場は、野球部や学校関係だけに留まらず、宮崎県民に、そして全国の卒業生や朝陽会にも大きな喜びと変化をもたらしてくれました。

出場が決まってすぐに特別後援会が発足し、朝陽会も卒業生の各学年の方々に声をかけ集まって頂き、協力を呼びかけました。

甲子園の入場券と共に、応援グッズのジャンパーとキャップも送って欲しいとの申込みに私達朝陽会の理事のメンバーも仕事の合間をぬって、発送の作業などに奔走しました。

そして、当日のあのアルプススタンドは、地元からの応援団に加え、全国各地から駆けつけてくれた卒業生などで、いっぱいに埋め尽くされたのです。

現役高校生の素晴らしい応援に、私達OBも負けじと大きな声で応援しました。あの一体感は、あの場でないと味わえない感覚でしょう。結果は残念でしたが、野球部の皆さんの活躍は、沢山の人に出会いと元気と感動を与えてくれました。

本当にありがとうございました。



西高球児たちとの面会

五期生　鎌田敏郎

母校が甲子園初出場を決めた記念すべきタイミングに、たまたま関西在住で、何とラッキーなことだと思った。朝陽会関西支部支部長の松尾さんから「本番前に西高球児たちの宿舎へ差し入れを持って面会に行きませんか？」とのお誘い。二人で訪問することになった。行先は、大阪・中之島にある地上三十一階建ての超高層ホテル。宮崎西高生といえども甲子園に出る生徒だから相当にガタイが良いのだろうか？はたして甲子園球児たちとまともに会話できるだろうか？妄想と不安を膨らませ、ホテルエントランスに到着。まずは引率の先生との会話の後、マネジャーを含む数名の宮崎西高球児たちとの面会は始まった。しかし疑問はすぐに氷解。礼儀正しく、利発そうで、皆、凛々しい顔立ち。（自分と背丈も大きく変わらず、安心した？）西高生は、やはりこうでなくっちゃ！対戦相手の愛工大名電といえば、あのイチローの母校。向こうは野球一筋のはず。君たちが負けても何も恥ずかしくないよ。宮崎西高生は勉強で勝負！ここに来ただけでもう十分。無理しないでね。我々先輩たちの夢を叶えてくれてありがとう！気を付けて宮崎に帰ってね、…。試合はまだこれからというのに、私の中では、物語は幕を閉じようとしていた。

夢の甲子園！

四期生　伊藤朋子

甲子園出場が決まった時、同級生と連絡をとり、大変喜びました。

私たちの時代は、甲子園は遠い夢の世界でした。

出場決定後、同窓会ホームページには、同窓生からのお問い合わせが殺到しました。

その際に、たくさんのメッセージをいただきました。

「感激です。甲子園で応援できる機会を与えてくれた後輩に感謝です。」「母校の勇姿が甲子園で見れるなんて夢のようです。」「絶対、家族みんなで応援に行きます。」などなど、熱い熱い思いを綴ってくださいました。

試合当日は、アルプススタンドで、みな一丸となって応援でき、感激しました。

甲子園に全国各地から、同窓生が集うことができたので、試合前日、当日に各期でミニ同窓会が開かれたようです。

なかには、高校卒業以来、初めて同級生と再会された方もいたようです。

試合後、ホームページに、同窓生より、感謝のメッセージが寄せられました。

「感動をありがとう」「西高生であることを、誇りに思いました。」このように、再度、お言葉をたくさんいただいて、改めて、宮崎西高への深い思いを感じました。

甲子園という夢の舞台を与えてくれた後輩にほんとうにありがとうという気持ちでいっぱいです。

十三期生　宮崎修一

宮崎西高野球部、甲子園出場おめでとうございました。ついに先日、今年の選抜出場校発表のニュースが流れ、あれからもう一年も経つのかと、時の流れの速さを思い知らされました。私は関西在住でありながら、甲子園に高校野球を見に行ったことがなく、一度は宮崎県勢を応援に行きたいと思っていたのですが、まさか最初の観戦が母校の応援になるとは思ってもみませんでした。私の同窓生も多数、宮崎や東京をはじめ全国各地から応援に駆け付けておりました。中にはほぼ二十年振りに顔を合わせた友人もおり、思いがけない同窓会となりました。球場の一種独特な雰囲気に酔っている中、試合はあっという間に終わってしまいました。初戦の相手が強豪校で、負けはしましたが、宮崎西高野球部にとっての大きな第一歩であったと思います。野球部に続き、在校生や卒業生の皆様が、スポーツ、学問、社会活動など分野を問わず、全国で、また世界で活躍されることをお祈りいたします。



三十六期生　吉瀬優香

三月二十三日、大阪行のフェリーに乗り込む私たち。念願の甲子園出場を果たした母校を応援するために、宮崎を三日間離れます。高校最後の一年間を一緒に過ごした五人で、はしゃぎながら甲子園旅行！…といっても、USJとか道頓堀とか、寄り道もたくさんしました。地下鉄、人混み、関西弁っ。

肝心の甲子園観戦は、旅行二日目の二十五日。選抜では優勝経験もある愛知工大名電を相手に、必死に走る野球部を見て、胸が熱くなります。四校定期戦でも見たことのないようなプレーでした。在校生の頃全校集会で聞いた、兒玉正剛先生の「今年は絶対に皆を甲子園に連れて行く」という言葉、今でも覚えています。一年遅れて、その約束は果たされることになったのです。寒い中、声を張り上げて皆で応援しました。最優秀応援団賞、とっても宮崎西高らしいと思います。部員数は多く、狭いグラウンド、短い練習時間の中、並々ならぬ努力があったはず。試合結果は残念だったけれど、野球部や応援団の頑張る姿は、きっとたくさんの人に感動を与えました。ありがとう！

五期生　荻野正雄

西宮で六回目の春、その朗報に胸が躍りました。三十年以上も宮崎の地を離れ、母校の想い出も薄れていた頃。まさか後輩達が偉業を成し遂げてくれるとは（野球部の皆さん、ごめんなさい）。それからと言うもの、宮崎西高のホームページを見たり、卒業アルバムを出してきたり・・・。

試合当日は日延べも助けての日曜日。落ち着かない朝を過ごし、いざ甲子園へ。懐かしい制服の学生たち、応援旗。その日は応援団の一員として、久しぶりに宮崎に戻った感じでした。校歌斉唱。躍動する選手、父兄、同窓生の一体感。とても心が満たされました。

甲子園出場が、全国あまたの卒業生にどれほど喜びと感動を与えてくれたことでしょう。母校に思いを馳せるとともに、より一層絆が深まったのではないでしょうか。

あれから一年。通勤途上にある甲子園球場前を自転車で走りながら、今でもあの時を思い出します。間もなく、春の大会が開幕。今年は外野席に陣取り、両チームの活躍を冷静に観戦しようと思います。宮崎西高ナイン、甲子園出場おめでとうございました。

そして、ありがとう。

三期生　渡辺康晃

昨年一月二七日、私の勤務する東京のオフィスに一本の電話が入りました。母校の甲子園初出場という嬉しい知らせでした。三期生の私は、まだペンキの匂いが残る宮崎西高に昭和五一年に入学しました。その年初めて全学年揃いましたが、卒業生はおらず歴史もありませんでした。一緒に学び、遊んだ友達とも卒業後はバラバラになり、積み重ねられていく母校の歴史を意識することもないまま今日に至っていました。

出場発表から五日後、渋谷のレストランに卒業生が大勢集まりました。東京在住の卒業生が電話やフェイスブックを使って急遽、祝賀会への参加を呼び掛けたのです。集まったのは二十代から五十代までの二十名。会場で初めて顔を合わせた人も多かったのではないかと思いますが、「良かった！」「バンザーイ！」の連呼で大盛り上がり。「絶対応援に行こう。」と団結し、全員大声で校歌を歌いました。

三月二五日、古豪愛工大名電との試合当日。待ち合わせ場所となった球場入口に集まっていたのは、三五年の時を超え、ドラえもんのどこでもドアを開けて飛び出した同級生達です。「あんた誰やったかぁ？」「えれー歳とらへんかぁ」と皆興奮気味。私も五二歳を過ぎたおじさんですから記憶が甦える速度は若者に比べて遅いのかもしれませんが、それでも声を掛けられ話をしているうちに、共通の友達や学校行事等の出来事が、普段は使われていない私の脳のどこかにひっかかった様で、一人また一人と甦えります。

試合開始。一塁側スタンドを埋め尽くした宮崎西高応援隊は最後まで一丸となって後輩の試合を見守りました。甲子園出場は、卒業生にとって「誇り」であり、その誇りが卒業生の絆を深めてくれたのです。もしかしたら、それこそが「忘れかけていた大切なもの」なのかもしれません。

宮崎西高野球部の皆さん、本当にありがとう！



進化する西高野球部

野球部監督　兒玉正剛

「夏、甲子園に帰ってくる確率は何％ですか？」愛工大名電に敗れた直後のインタビュー。「宮崎もよいチームが多いので三十％あればよいのではないでしょうか。」と答えました。あれから一年が経過しようとしています。

さて宮崎西高野球部ですが、夢舞台「甲子園」を経験し、春の九州大会、ＭＲＴ招待野球を経て夏の大会へ挑みました。例年では対戦できない「浦和学院」「帝京」「自由ヶ丘」などの強豪校と対戦をすることで学ぶことも多く貴重な体験ができました。夏は第三シードとして出場しましたが、二回戦で宮崎商業高校に、秋は三回戦で高鍋高校に僅差で負けてしまいました。大会成績を見ると全く変わり映えがしないのですが、大きな変化は練習の態度に表れています。「気づき、考え、伝え共有し、実行する」を合い言葉に、ここ数年練習計画は自分たちで考え、相談しながら実践しています。自ら考えて計画を立てることで、自分たちには何が必要で、この練習は何を強化しているのかを感じながら効率よくできます。そのためにはミーティングの充実は欠かせないものです。その日や一週間で気づいたことを各人が発表し合いながら共有していきます。個人の意識の高さは宮崎西高野球部の伝統的なすばらしさですが、甲子園出場以来確固たるものになったように思えます。チームとしてまだまだ足りない部分もあるのでもっと貪欲に努力していきたいと思います。現在は「気づき」に重点を置き、日々学校生活や練習を行っています。

第八十四回全国選抜高校野球大会への出場は、到底野球部だけではできなかったことです。九州大会で負けた後から「二十一世紀枠」の選出がありました。「文武両道」「国公立大学約三〇〇名合格」など、今までの宮崎西高の実績が評価されました。それは諸先輩方（生徒・職員・保護者）の努力の賜であり、脈々と流れる「宮崎西高魂」であると考えられます。

現在の野球部は、まずは「春季九州大会予選ベスト四」を目標に毎日頑張っています。来年度は九州大会が宮崎開催ということでベスト四が出場できます。そしてＭＲＴ招待野球にも出場でき、昨年度同様の強豪校と試合をして夏の大会に臨むことを考えています。昨年度の全国選抜大会に出場した選手も残っており、甲子園の経験を最大限にいかしながら「夏の全国選手権大会」の出場を視野に入れて努力していきたいと生徒と共に強く思っています。



朝陽会ＨＰ＆Facebook

朝陽会では、ウェブ上で、「朝陽会ホームページ」と「朝陽会本部 Facebook」を運営しています。

まず、「朝陽会ホームページ」ですが、朝陽会の重要事項やお知らせなど、様々なコンテンツで構成されています。その一つに、「みんなの伝言板」があり、各種イベントの案内など、会員皆様の交流や情報発信のお役に立ててください。また、会報を PDF ファイルで閲覧することもできます。それから、毎年八月第二土曜日に宮崎市内で開かれる朝陽会総会及び全期合同懇親会の情報も掲載しています。この懇親会は卒業年度にかかわらず全期の同窓生が対象で、県外にお住まいの方も夏休みに帰省する際にはスケジュールを合わせて、ぜひご参加ください。

ところで、今や大学生のサークル活動のみならず、就職活動にまでＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が利用されるようになってきました。朝陽会でも、Facebook に「朝陽会本部」のページを設けています。

Facebook にアカウント登録している方は、ログイン後に一番上の検索窓から「朝陽会」や「宮崎西高校同窓会」と入力して下さい。未だ登録していない方で興味のある方は、これを機会に Facebook について検討されてはいかがでしょうか。ＳＮＳには Twitter もありますが、匿名でなく相手の名前が判ってこその同窓会だと思いませんか。画面左側の「つながりを検索」の所にある「友達を検索」をクリックすると、さまざまな条件で検索することができます。西高を登録した方は学校名のボックスをチェックするだけで、もう画面は西高の卒業生ばかりです。第一回卒業生ももう五十四歳になります。ちょっとくたびれた顔が出てくるのも許してあげましょう。スマートフォンをお使いの方は Facebook アプリを入れておくと、メッセージが届いたのがリアルタイムでわかります。

但し、ＳＮＳに登録する際には、セキュリティに十分注意することが大事です。個人情報を近い友人だけにしか見えないようにする設定方法もありますが、最初は住所や電話番号は記入しない方が安全です。（住所は市区町村までにしましょう。）また、全く見知らぬきれいな写真の人から友達リクエストを受けることがありますが、ほとんどが悪質サイトへの誘導です。本人の基本データを見ると、何も記入がないことがほとんどです。

Facebook の基本は「知っている人とつながること」です。知らない人からの友達リクエストは絶対承認してはいけません。プライバシー設定から「つながりの設定」で、知らない人からは友達リクエストが出来ないように設定しておきましょう。

「朝陽会ホームページ」と、「朝陽会本部 Facebook」を、これからも宜しくお願いします。

【朝陽会 HP】 choyokai.jp　　【朝陽会本部 Facebook】 www.facebook.com から「朝陽会」を検索

名簿作成のお願い

宮崎西高は平成二十五年十月に学校創立四十周年を迎えます。朝陽会は、学校創立四十周年記念事業に積極的に参加する予定です。その一環として、オプトアウト（個人情報保護法第二十三条第二項）方式により、朝陽会会員名簿を発行することになりました。会員動静の把握（事務局名簿の更新）という大変重要な側面もありますし、また、今回新たにメールアドレスを登録項目として追加しております。会員の皆様方のご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願いします。尚、名簿作成事業周知徹底のため、事業開始次第、詳細を朝陽会 HP に掲載する予定です。

お知らせ

朝陽会会長の一木尚敏様は、平成二十五年二月十六日に会長を辞任されました。そのため、会報の『ごあいさつ』を、副会長の久保裕様にお願いしました。

編集後記

二月末に行われる「同窓会入会式」で新入会員の皆様へ配布することができるよう、昨年同様今回もこの時期の発行となりました。広報担当理事としてはじめて会報の作成に携わりましたが、非常にタイトなスケジュールでたいへん苦労しましたが、たくさんの素晴らしい原稿に加え、多くの方々から温かいお言葉まで頂戴することができ大変感謝致しております。

今年十月に宮崎西高も学校創立四十周年を迎えることとなり、一九七七年よりも毎年飛び立った卒業生達は今や日本中世界中で活躍しています。この会報が全ての朝陽会会員を繋ぐ一助となれば幸いです。